

提案書評価基準

1 基本的な評価事項

表 1 を参考に、対象業務内容に応じた評価事項等を適宜追加・削除し、また、業務内容に応じた重み付けを考慮した配点を決定する。

表 1 基本的評価事項

評価項目 ()配点例	評価の着目点	配点	評価	評価の 換算式	評価点
予定技術者の 業務実績 (20点)	本業務に活かすことのできる過去の業務実績があるか (過去 10 年間)	20			
提案内容 (80点)	現状及び課題を的確に把握しているか	20			
	課題解決に結びつく提案であるか	20			
	実現性の高い提案であるか	20			
	先見性のある視点を取り入れられているか	10			
	取組意欲の感じられる提案であるか	10			
評点の合計					

2 評価方法

(1) 各評価項目について、次のように評価を行う。

ア 提案者の業務実績は、A、C、E の 3 段階評価を行う。

イ 提案内容は、A、B、C、D、E の 5 段階評価を行う。

(2) 評価点について、次のように配点を行う。

ア 提案者の業務実績は、20 点満点とし、A = 20 点 ($20 \times 5 / 5$)、C = 12 点 ($20 \times 3 / 5$)、E = 4 点 ($20 \times 1 / 5$) とする。

イ 提案内容は、それぞれの配点に、換算した評価 (A = $5 / 5$ 、B = $4 / 5$ 、C = $3 / 5$ 、D = $2 / 5$ 、E = $1 / 5$ とする。) を乗じて算出する。

例えば、表 1 において配点 20 点の項目の場合

評価が A であれば評価点は $20 \times 5 / 5 = 20$ 点

評価が B であれば評価点は $20 \times 4 / 5 = 16$ 点

評価が C であれば評価点は $20 \times 3 / 5 = 12$ 点

評価が D であれば評価点は $20 \times 2 / 5 = 8$ 点

評価が E であれば評価点は $20 \times 1 / 5 = 4$ 点

(3) ア及びイの評価項目の評価の視点は、表 2 のとおりとする。

(4) 評価が同点となった場合は、評価委員会に出席した委員の多数決で決し、票数が同数の場合は、委員長の決するところによる。

表2 評価の視点

評価項目	評価の着目点	評価				
		A	B	C	D	E
予定技術者の業務実績	本業務と同等及び類似した業務実績の内容	本業務と同等と考えられる業務実績がある	/	本業務と同等ではないが類似と考えられる業務実績がある	/	本業務と同等及び類似と考えられる業務実績がない
提案内容	現状及び課題を的確に把握しているか	的確に把握している	把握している	どちらともいえない	あまり把握していない	把握していない
	課題解決に結びつく提案であるか	十分課題解決に結びつく	課題解決に結びつく	どちらともいえない	あまり課題解決に結びつかない	課題解決に結びつかない
	実現性の高い提案であるか	実現性が特に高い	実現性がある	どちらともいえない	実現性が低い	実現性がない
	先見性のある視点が取り入れられているか	十分取り入れられている	取り入れられている	どちらともいえない	あまり取り入れられていない	取り入れられていない
	取組意欲の感じられる提案であるか	強い意欲が認められる	意欲が認められる	どちらともいえない	あまり意欲が認められない	意欲が認められない